



ひゅひゅだより

No.4. 2021. 6. 30

おおくりさん「呼吸の時間」を担当しています、西川真木枝です。

先日読んだ『手の倫理』(伊藤亜紗著)という本に、「安心」と「信頼」の違いについてこう書いてありました。

「安心」という感情は、状況をコントロールできている想定と関係しています。

他方で、「信頼」が生まれるのは、そこに「社会的不確実性」があるときだ、と山岸は言います。

(中略) 要するに、安心とは、「相手のせいで自分がひどい目にあう」可能性を意識しないこと、信頼は「相手のせいで自分がひどい目にあう」可能性を自覚したうえでひどい目にあわない方に賭ける、ということです。

わたしはぴっぴで子どもを育てたわけでもなく、6か月前からサポートスタッフとして関わっている程度の新参者なのですが、この「信頼」の説明を読んで、すぐさま、ぴっぴの森のことを思いました。子どももスタッフも、コントロールできない森という自然の中で、時に氷すべって転び、時に手に棘がささって泣き、感情まるだして友達とぶつかり合い、それでもこの森は「楽しいことがある」と賭けて、自然や人への信頼感を育んでいるように感じたのです。

すごいな。信頼感って、こうやって育てるのか。目から鱗でした。

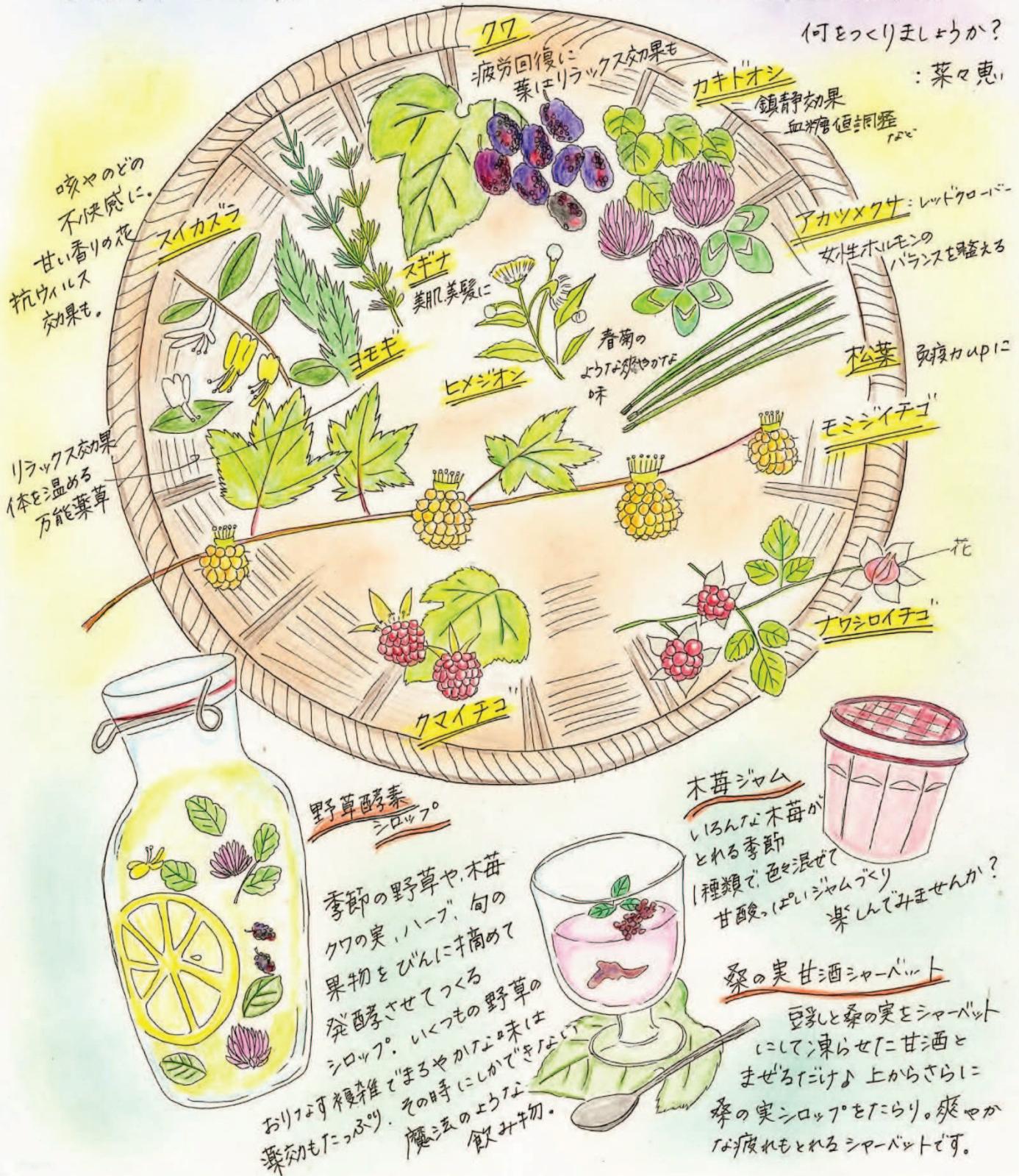
正直なところ、自分は母親として、保育士として、またヨガ教師として、相手に「安心」してもらうことの方が仕事だと思ってきました。安心してくれたまご、感情を出せる、安全基地であること。もちろんそれも（0-2歳は特に）大事なのですが、それだけでは人間のほんとうの優しさの土台となる強さは育たないのかもしれない。ほんの半年ですが、そんなことを少しづつ学んでいます。

そして、「呼吸の時間」。苦戦しています！何しろ、わたしが子どもたちと共有している時間が圧倒的に少なく、「信頼関係」が育ちにくい。ううーん、と頭を抱えてしまうこともしばしば。でも、そんなときには、「そこのあなた、ちょっと悩みすぎですよ。顔を上げてごらん」とどこからか声がかかります。緑の眩しい季節。自然が話しかけてきます。わたしも森に救われ、人に救われ、ときに傷つき、涙を流し、でも再び「この世界には楽しいことがある」と賭けて、生きてきたのです。

いちばん身近な自然がじぶんだよ、からだの中にも森があるよ、風が吹くよ、雨が降るよ、嵐もあるよ、からだもじぶんを助けてくれる存在だよ、そんな想いがいつか子どもたちに届くでしょうか。まずは肩の力を抜いて、挑戦してみたいと思います。

森のみちくさおいしいお話 7月

雨の季節。雨の晴れ間に木苺摘みにてかけましょ♪ 宝石のように美しいすきとおるようなモミジイチゴ。クマイチゴ。ナワシロイチゴ。そしてクワの実。おいしくてかわいいベリーたちに出会うと大人も子どももい“踊ります。雨の東洋をたっぷり受けた木の葉や草の葉、花たちを摘んで”かごの中には色とりどり、生命のパワーがあふれています。そんなパワーをいたたいて、今日は



おんせんはなけ

先日(6/9)、おおきくみの
みんなでまた大豆の種が芽を出して育てました。
大豆が大きくなって収穫できたら…

今年は味噌作り、しょうゆ作りもしたいなあ…
4月に植えた大根も、間引きをランチやお料理
の日に食べながら、畑に残っている大根は大き
なってきています。

スナップエンドウも収穫が始まりました。
田んぼの方では、稻もすくすく育っています！

田植え作業もありがとうございました！

稻のあいだには草たちもすくすくと…
今はまだ顔を出しているのはケなく水の中ですが、
その数は相当です。水中にいるまた小さいうちに
なんとかしたい！と熊手などのかき棒や手で
ごしょじょして浮かせる作業をしています。

ご協力ありがとうございます！

そしてまだまだご協力いただける方大募集です。
土や水や草に触れたくないときはせひ・
：はるこ